

履歴事項・業績目録等の記入要領

1. 履歴事項について

- 1) 旧姓を使用する場合は()で氏名欄に旧姓を記入する。例) 鈴木(田中)花子
- 2) 生年月日及び年度の欄にはすべて西暦を用いて記入する(ほかの記入用紙でも同様に西暦を用いる)。
- 3) 学歴は中学校以下を省略し、高等学校の入学から書き始める。休学期間がある場合には、備考欄に期間と理由を記入する。
- 4) 修学期間の始期と終期の欄にはそれぞれ年月日を記入する(西暦については下2桁を記入する)。修学期間は入学・編入・転科等を始期とし、卒業・修了・中退・退学等を終期として、区分欄にこれらの事項を記入する。
- 5) 職歴の在職等の期間の始期と終期の欄にはそれぞれ年月日を記入する(西暦については下2桁を記入する)。在職等の期間はその長短に関係なく身分(職名)関係のすべてを記入する。事項欄には、所属機関・部局名と職名を記入する。
- 6) 免許・資格に関しては必要に応じて職歴・研究歴欄に記入する。
- 7) 学位・称号の項には、博士及び修士又はこれらに相当する学位及び権威ある団体から授与された称号を記入する。外国の大学・研究所・学会等から授与された学位・称号を含む。取得見込みの学位等については、取得予定日を記入の上、記載することができる。なお、授与された学位記については、学位記番号を記入するものとする。

2. 学会関係について

- 1) 学術等の賞の項には、授与者が学会など権威ある団体となっている賞を記入する。
- 2) 学会出席・研究等のための海外出張又は研修の「費用の出途」の欄には、文部科学省在外研究員・***奨学生・***学会又は自己負担、等と記入する。「目的国名」は主たる国名のみを記入する。
- 3) 「主要所属学会等の名称と地位」の欄には、学会・学術団体・芸術団体等の名称とそこでの地位、つまり、会員・企画委員・編集委員・理事等を記入する。それぞれの地位の始期と終期を記入する。
- 4) 専門分野の主要な学会誌・学術誌等又は展覧会・演奏会・競技会等の「学会誌・学術誌等、展覧会・演奏会・競技会等の名称」の欄にはその正式名称(業績リストで略称を用いる場合は、正式名称の後に()を付してその略称を記入)を、「発行・開催数」の欄には1年間に発行・開催される回数を記入し、査読体制の有無の欄にはその有無を記入する。

3. 業績目録：業績Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ類について

- 1) 研究業績は次に示す定義と例示に従って各自が分類する。

〔1〕業績Ⅰ類：研究活動の成果が全国的または国際的水準にある研究業績。

ア 単著または第一著者となっている学術的な著書・編著書・翻訳書、全国的または国際的学会誌に掲載されている論文等。それ以外の刊行物に掲載されている論文等をⅠ類に分類する場合には、別紙の「業績説明書」に全国的または国際的学会誌相当とした理由を記するものとする。

「業績説明書」に理由を記すことにより、第一著者でない著書・編著書・翻訳書・論文等を含めることができる。

学術著書等は、この水準の相当数の論文とみなすことができる。ただし、相当する数(5編以内)とその理由を「業績説明書」に記する。

実践報告書等は、数編のまとまりをもってⅠ類業績とすることができる。ただし、「備考」欄にその旨を記する。

プロシーディングス・講演・速報・短報・書評・教科書の監修・辞(事)典類の分担執筆等において、学術的に価値のあるものを含めることができる。ただし、「業績説明書」に理由を記する。

イ 高い水準のリサイタル・作品発表会での演奏またはソリスト・指揮者・作曲者等として実績のある演奏者・団体との共演。理由を「業績説明書」に記すことにより、共同発表会等での活動を含めることができる。

ウ 実績のある美術団体の審査員・会員若しくはそれらの団体の主催する展覧会での入選などの受賞作品又は高い見識のある評者によって評価されている作品。

エ 国際試合又は全日本大会等の競技会への選手・コーチ・監督・審判員・役員・顧問等としての参加。

〔2〕業績Ⅱ類：業績Ⅰ類の水準には達しないが、研究活動の成果が認められる研究業績。

ア 業績Ⅰ類には分類されない単著又は第一著者となっている著書・編著書・翻訳書・研究論文等。「業績説明書」に理由を記すことにより、第一著者でない著書・論文等、プロシーディングス・講演・速報・短報・書評・教科書の監修・辞(事)典類の分担執筆等で学術的に価値のあるものを含めることができる。

イ 業績Ⅰ類には分類されない業績で、実績のあるリサイタル・個人発表会・共同発表会等での発表、個展(これに準じた展示会)に出品した作品、実績のある競技会への選手・コーチ・監督・審判員・役員・顧問等としての参加等。

〔3〕業績Ⅲ類：専門分野を中心とした領域での大学教育に関わる研究業績。

ア 専門分野の大学教育に関わる著書・論文(単著又は第一著者を原則とする)。

イ 大学において用いられる教科書。

ウ 定期刊行物又は公刊を目的とした印刷物に、大学の教育に関係して、第一著者として掲載されている論文・論考・報告書等。

〔4〕業績Ⅳ類：業績Ⅰ類、Ⅱ類及びⅢ類には分類されない研究業績。

ア 学会誌又は相当の刊行物に掲載されている共同執筆の論文等。

イ 速報・短報として学会誌に掲載されている論文・報告等。

- ウ プロシーディングス・講演・発表・報告等。
- エ 専門誌（商業誌を含む）に掲載されている書評・研究動向・総説等。
- オ 教科書（大学を除く）の監修・編集・執筆等。
- カ 辞（事）典類の分担執筆等。

〔5〕業績Ⅴ類：研究領域と関係した、公的な社会活動としての業績。

- ア 学会等の役員・審査員・編集委員等。
- イ コンクール・競技会等の審査員・審判員。
- ウ 学外の委員会・審議会等の委員。

- 2) 研究業績は、各類ごとに年代順に記入し、論文等の業績の現物にはそれぞれの業績目録での類と番号とを明記する。
- 3) 「区分欄」には、著書・論文・演奏・作品・出品・出場・報告・講演・論考など、業績の種類を記入する。
- 4) 「題目等」の欄には、業績のタイトルを（副題があれば副題も）記入する。演奏、競技等の業績については、出場の部門と入選・入賞等の業績の名称を記入する。
- 5) 「発行所・発表雑誌・発表の場など」の欄には、①著書等については発行所・分担ページの範囲（共著書等〔表紙に氏名が示されているものに限る〕の場合、総ページ数をかっこ書きすること）等、②論文等（刊行物に分担執筆したものを含む）については掲載雑誌及びその巻号（刊行物の場合、書名と発行所及び総ページ数をかっこ書きすること）・執筆ページの範囲、③その他の区分の業績については、それぞれ、演奏会・展覧会・大会などの名称と場所、その他業績審査に対して参考となる事項を記入する。
- 6) 「査読の有無」欄には、当該論文等が査読審査を受けたものかどうかを「有」「無」で記載する。
- 7) 「備考」欄には、①共著の場合には共著書の氏名（掲載順）、②博士の学位のない場合にその学位に相当する論文群の指定（少なくとも1編は業績Ⅰ類にあること）、③数編のまとまりのある実践報告書等を業績Ⅰ類とする場合にはそのまとまりの指定、④当該業績についての書評・重要な引用などの参考事項がある場合にはその事項とそれが掲載されている雑誌等（資料の所在）等を記入する。
- 8) 未発行の論文・著書等については、発行予定が証明される文書を添付するとともに、「備考」欄にその旨を記入する。
- 9) 「業績説明書」には、①全国的または国際的学会誌でない雑誌又は刊行物に掲載されている業績をⅠ類の業績とする場合には、全国的または国際的学会誌に相当するとする理由、②第一著者でない業績をⅠ類、Ⅱ類又はⅢ類の業績とする場合にはその理由、③学術図書が数編の論文に相当する場合には、相当する数（5編以内）とそのように判断する理由、④プロシーディングス・講演・速報・短報等をⅠ類又はⅡ類の業績とする場合にはその理由を記載する。なお、「業績説明書」の番号欄には、各類の研究業績番号と同一番号を付ける。

4. 研究業績Ⅴ類の業績目録について

- 1) ここに分類される業績は、前項3. 1)、〔5〕に示される業績である。
- 2) 「区分」欄には、委員・審判員・審査員などの社会的活動の役職名を記入する。
- 3) 「活動の名称と業務等」の欄には、委員会・協議会・競技会・コンテスト等の名称とそこでの業務内容や役割等を記入する。
- 4) 「任命・依頼機関」欄には、任命権者、委員・審査員等の依頼機関の名称などを記入する。

5. 教育活動記録表について

- 1) 「年度」の欄には、西暦の下2桁を記入する。
- 2) 「講演実別」の欄には、授業形式すなわち、講義、演習、実験、実習の区別を記入する。
- 3) 「対象学生」の欄には、大学・学部名とその授業の主たる対象となる学生集団、例えば、学部全体、小学校課程の学生、理科免許取得希望者、研究室（専攻学科）学生、卒論指導学生等の区分を記入する。
- 4) 「担当の程度」の欄には、授業の単位として半期90分を1として、一人で通期の授業を担当しているとき2、それを3人で平等に分担しているとき2/3、実験授業を4人で分担しているとき3/4等と担当の程度を記入する。

6. 校務活動記録表について

- 1) 「年度」の欄には、西暦の下2桁を記入する。
- 2) 「委員会・選出等の区分」の欄には、選挙による全学の委員会委員等（全学選挙）、委嘱等による全学の委員会委員等（全学委嘱）、選挙による学部内委員会委員等（学部選挙）、部会等のグループごとの選挙による学部内委員会委員等（部会選挙）、部会推薦による学部内委員会委員等（部会推薦）、講座等の単位で推薦される委員会等委員（講座推薦）、研究室などの単位で分担する委員会委員等（研究室分担）など委員会の水準・選ばれ方を記入する。
- 3) 「役割等」の欄には、委員会において、委員長、広報担当、書記、その他の分担等があれば記入する。

<滋賀大学大学院教育学研究科高度教職実践専攻研究者教員の資格基準による審査の場合には、以下についても加えて記入してください。>

7. 教育実践に関する論文等について（業績Ⅰ～Ⅳ類に分類した業績との重複は差し支えない。）（5点以内）

- 1) 論文等は、年代順に記入し、業績の現物にはそれぞれの番号を明記する。
- 2) 「区分」の欄には、著書・論文・報告・論考など、業績の種類を記入する。
- 3) 「題目等」の欄には、業績のタイトル（副題があれば副題も）を記入する。
- 4) 「発行所・発表雑誌・発表の場など」の欄には、①著書等については発行所・分担ページの範囲（共著書等〔表紙に氏名が示されているものに限る〕の場合、総ページ数をかっこ書きすること）等、②論文等（刊行物に分担執筆したものを含む）については掲載雑誌及びその巻号（刊行物の場合、書名と発行所及び総ページ数をかっこ書きすること）・執筆ページの範囲等、その他業績審査に対して参考となる事項を記入する。
- 5) 「備考」欄には、①共著の場合には共著書の氏名（掲載順）、②当該業績についての書評・重要な引用などの参考事項がある場合にはその事項とそれが掲載されている雑誌等（資料の所在等）を記入する。
- 6) 未発行の論文・著書等については、発行予定が証明される文書を添付するとともに、「備考」欄にその旨を記入する。
- 7) 「業績説明書」には、当該業績が教育実践に関する論文等に相当する理由について、説明することができる。

8. 実務経験について

- 1) 実務経験は、年代順に記入し、根拠資料にはそれぞれの番号を明記する。
- 2) 記入について例示

ア 教職等の経験

「所属・職名」	「期間」
〇〇市立〇〇小学校・教諭	2000. 4. 1～2007. 3. 31

イ 教育や行政に係る委員会等の委員の経験（5件以内）

「委員会及び委員の名称」	「期間」
滋賀県教育委員会〇〇審議会・委員	2010. 4. 1～2012. 3. 31

ウ 研究会・研修会等での教員を対象とした指導や助言の経験（5件以内）

「研究会・研修会等の名称」	「経験内容」	「年月日」
2019年度附属小学校教育研究発表協議会	助言者	2019. 11. 3
2019年度滋賀大学教員免許状更新講習	講師	2019. 8. 5

- 3) 「備考」欄には、審査に対して参考となる事項があれば、それを記入する。
- 4) 根拠資料について

「実務経験区分」イ、ウの根拠資料として、委嘱状、辞令、パンフレット、報告書等を添付する。